

# 高梁市立成羽小学校

・児童数 195名 ・学級数 8学級 ・教職員数 26名（平成26年10月31日現在）

## ○取組実践のキーワード

小中連携

## ○標題（研究主題）

学力向上をめざした小中連携の取組

## ○取組を始めた経緯

成羽中学校区は、小学校1校、中学校1校であり、系統的な指導がしやすい環境にあり、学習面及び生活面において、小中学校が連携し、系統性のある「9年間の学び」が求められている。

本校では、平成25年度から、高梁市の研究指定を「小中連携」で受けたことをきっかけとして、小学校での学習内容が、中学校での学習にどうつながるのかを知るなど、児童が学習面や生活面でも安心して進学できるようにすることが不可欠と考えた。

## ○取組の実施体制

- ・成羽中学校区研究推進委員会（小中校長、教頭、教務、研究主任）、小中合同部会（授業改善部会、家庭学習部会、生活習慣改善部会）で、小中連携を図る。
- ・校内では、校長、教頭、研修部が研修の企画運営をしている。

## ○学力向上に向けた具体的な取組

### （1）小中連携の取組

#### ①相互授業見学と公開授業の実施

校種間の授業や学習環境をお互いに把握するために、公開授業を実施した。

#### ②合同研修会の実施

夏季休業中に全国学力・学習状況調査及び岡山県学力・学習状況調査の結果を基にした、「小中意見交換会」を開催した。また、講師を招聘して、「ノート指導」「協同学習」などの共通のテーマで研修会を開催した。

#### ③教室環境と授業スタイルの改善

中学校では、ユニバーサルデザインの観点から、教室前面黒板の簡素化として、写真・絵・文字等の掲示を基本的にゼロにする取組を行っているため、本校では、児童の発達段階を考慮しながら、不要な掲示を検討し、精選して掲示するように心がけた。

また、中学校の授業にスムーズに移行するために、授業の流れを小中で統一することにした。「めあて」と「まとめ」を必ず掲示し、本時のねらいを知り、授業の振り返りができるようにした。

#### ④出前授業の実施

中学校進学への不安を解消するための手立ての一つとして、中学校教員による「出前授業」を実施した。6年生では、3学期に英語、数学（算数）、英語をし、5年生では、国語を実施した。4年生では、小学校教員と中学校教員とのTTで理科の授業を行った。

## ⑤中学校の学校行事の参観

5, 6年生の体育祭予行演習の見学などの交流を行った。

## ⑥合同授業の実施

中学校の学習に慣れるとともに、入学後の3年と1年の関係になる児童・生徒がふれあうことで、スムーズな人間関係を築くことができるように、小学校6年生と中学校2年生とで合同授業を行った。

## ⑦学習支援ボランティア（ピアサポート）の実践

夏休み期間を利用して、中学生との関係に不安な児童の交流と小学生の学力向上のサポートを兼ね、中学生が小学生の学習支援を行う活動を実施した。

## (2) 小学校の取組

### ①学習の基盤を支えるかまえづくり

○学習規律を定着させるために、「学習のきまり」を作成し、教職員で共通理解を図った。各教室に「学習のきまり」を掲示し、指導の統一を心掛けた。「学習のきまり」が意識できるように、「学びの振り返りカード」を活用して、毎月自分の学び方を振り返る機会を設けた。

○話す・聞く態度を徹底するために、教職員で指導すべきことの共通理解を図った。発達段階に応じて話型を掲示するなどして、発表の仕方の参考になるようにした。

○ノート指導を充実させるために、教職員で基本的なノートの書き方の共通理解を図った。また、丁寧にノートをまとめられるように、筆箱の中、机の上などを整頓するよう、指導を重ねた。

○落ち着いて学習に臨めるように、日常生活（児童朝礼・終礼、校内放送の聞き方、掃除の反省会、ロッカー・靴箱の整理整頓など）の中でも児童や教職員が共通理解を図りながら、指導を行った。

### ②基礎基本の定着を図る朝学習の工夫

8:10～8:20を朝読書の時間にし、8:30～8:40は「スキルアップタイム」として朝学習の時間にした。朝読書では、登校後の気持ちの安定と読書量の確保、さらに読解に必要な読む力を支える読書力が身に付くことをねらいとし、スキルアップタイムでは、学習の基礎基本の定着を図るとともに、集中して学習に取り組もうとする学習習慣の定着をねらいとした。その内容は、火曜日を視写、水曜日を漢字練習、木曜日を当該学年の計算練習、金曜日を前年度までの計算の復習とした。

### ③『学習指導スタンダード』を参考にした授業改善

#### ○やる気を持てるような学習課題の設定

学習の中心となる活動の前後に、児童が「やってみたい」「楽しみだ」と思うような学習課題を設定することで、児童の意欲を高め、学習の中心となる活動に進んで取り組めるようにした。

#### ○1単位時間の「めあて」と「まとめ」を意識した単元計画

「めあて」と「まとめ」を単元計画に入れることで、指導者は明確な視点や学習の流れを意識して授業に臨み、児童も具体的な課題意識をもって主体的に学ぶことができるようにした。

#### ○活動への見通しがもてる手立て

安心して積極的に学習するために、児童と学習計画を立て、いつでも確認できるように掲示したり、授業の流れを知らせたりと、学習活動を固定化し、見通しを持って授業に臨めるようにした。

#### ○考えをまとめるために取り入れた書く活動

分かりやすく伝えるためには、自分の考えを整理して深める活動が必要になる。児童がめあてに対する自分の考えを整理し、自信を持って表現するためにノートやワークシートを工夫して、意欲的に学習に取り組めるようにした。

## ○集団の効果的な活用

一人一人が自分の意見を表現する場は必要であると考え、どの児童も活躍できるよう、ねらいに応じてペア学習、グループ学習、一斉学習の学習形態を取り入れた。全体で発表する前に、隣同士で自分の考えを伝え合うことで、考えを深めたり、自信を持って発表したりすることができるようにした。

また、話し合いの際には、話型の提示や司会者、記録者、発言者、発表者などの役割を決めるなど、立場を明確にして臨めるようにした。

## (3) 家庭学習の充実

### ①家庭学習の手引き

本校では、平成24年度から「家庭学習の手引き」を作成、各家庭に配布し、学習の内容や進め方について知らせた。手引きでは、本校が設定した各学年の家庭学習時間の目安（学年×10+10分）や、自主学習の内容・進め方を紹介した。

平成26年度版には、児童が落ち着いて学習に取り組む環境を整えるため、次の日の学習の用意を毎日持ってくる物として紹介し、学習のかまへの定着を促す内容を追加した。巻末では、中学校での家庭学習の様子を紹介するページも設け、中学校での学習の様子も分かるようにした。

### ②宿題、自主学習ノート

毎日宿題として音読・漢字練習・計算の三種類を全校統一して設定し、児童の提出状況や学習の定着の様子を把握している。特に下学年では、まずは宿題を中心に、家庭で集中できる環境や習慣を身に付けることを目標にしている。

上学年では、自ら進んで学習に取り組む意欲と学力の向上のために、自主学習を勧めている。自主学習の習慣化を図るために原稿紙や方眼紙が一見開きとなっている自主学習ノートを用意し、漢字練習や、計算練習の他、社会科や理科のまとめ、自分の興味や関心があるものについて、自分なりの工夫でまとめたりするなどの学習を呼び掛けている。また、がんばっている児童のノートや中学生のノートを紹介するコーナーを掲示板に設けたり、参観日に保護者に紹介したりして、自主学習の内容の充実やまとめ方の工夫をしている。

## (4) 生活習慣の確立

### ①早寝・早起き・朝ご飯の推進

平成26年度から、小中の生活の実態を把握するため、個々で行っていた調査を改め、同一時期に同一内容の調査を行うこととした。調査時期は中学校のテスト週間、調査する内容は、学習時間、テレビ視聴時間、ゲーム（パソコン）をした時間、起床時刻、就寝時刻、朝食の摂取有無とした。

小学校では、4月と6月に「生活がんばりカード」と称して実施し、中学校では、4月、5月、6月に『生活記録カード』として実施した。今後も、中学校のテスト期間中に実施を予定している。

### ②ノーテレビ・ノーゲーム週間の取組

「生活がんばりカード」の取組とともに「ノーテレビ・ノーゲームの取組」を行った。これは、テレビやゲームのある生活を見直すだけでなく、テレビやゲームとの上手な付き合い方を考えることができるようにした。

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 小中連携の取組

教職員集団が校種間の授業形態や学習環境をお互いに把握するために、授業の見学と公開授業を実施したことで、小学校教員は中学校における専門性と、それに伴う生徒の意識の切り替えを意識し、中学校教員は小学校におけるほぼ全日を見守る指導の現状を見ることができた。

また、校種を越えて教職員同士の交流の機会がかなり増え、お互いに忌憚のない意見や質問を、親しみを込めてぶつけ合い語り合うことができるようになってきた。

#### (2) 小学校の取組

- 「学習のきまり」を作成して全職員で共通理解を図り、統一した指導ができるようになった。「学習のきまり」を掲示することで児童はきまりを意識し、落ち着いて学習に臨めるようになってきた。また、学校生活においても、環境を整えたり、適切な指導を行ったりすることは、落ち着いた雰囲気をつくり出し、学習によい影響を与えることができた。
- 「学びの振り返りカード」を毎月実施したことは、「学習のきまり」を意識できるようになり、自分自身の学習態度を見直すよい機会になった。
- 朝学習は、わずかな時間に集中して取り組むことができ、1日のスタートを落ち着いた雰囲気の中から始めることができた。視写、漢字練習、計算など活動が変わっていくことは、気持ちを切り替える上でも効果的だった。計算では、前学年の内容から始まるため、復習とともに「これならできる」という自信にもつながった。
- 『岡山型学習指導のスタンダード』を参考にした授業改善の5つの視点を定めることで、共通理解をすることができた。授業に対するベースがそろい、指導のずれが少なくなってきた。
- やる気を持てるような学習課題を設定することで、児童は、最後まで意欲を持続させながら活動に取り組むことができた。相手意識や目的意識をもって活動に取り組むことも効果的だった。
- 1単位時間の「めあて」と「まとめ」を意識した単元計画は、指導者も指導すべき内容が明確になった。児童にも本時の付けたい力を示すことで主体的に学ぶことができ、「分かった。できた。」という達成感を味わい、次の学習への意欲につながったようだ。しかし、教科の特性によっては、授業ごとに「まとめ」を明記していくことが難しいものもあった。
- 「めあて」を示し、学習への見通しをもたせることで、児童も主体的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。学習計画や1時間の学習の流れを示すことで、何をしているのかが分かり、安心して学習に取り組めるようになった。また、学習のパターン化を行うことで、効率よく学習を進めることができた。
- ワークシートやノートのまとめ方を工夫することで、自分なりの考えを書くことができるようになってきた。また、そのワークシートを使って友だちに自分の考えを伝えられるようになり、ペア学習やグループ学習での交流にも役立った。
- ペア学習やグループ学習の活用は、全体で発表する前に隣同士で自分の考えを伝え合うことで、自分の考えを深めたり、自信をもって発表したりすることにつながった。話し合いの仕方などは、身に付きつつあるが、話し合いの質を高めるために、「めあて」の質を高める必要があることが分かった。

### (3) 家庭学習の充実

- 「家庭学習の手引き」を作成したことにより、児童は学習の進め方や内容が分かり、家庭学習に意欲的に取り組むようになり、目標時間を達成する児童が増えてきた。
- 「家庭学習の手引き」を各家庭に配付したことにより、家庭学習についての本校の考え方を児童や家庭・保護者に伝えることができた。家庭・保護者の協力を得ることで、児童や保護者の家庭学習についての関心が高まり、一段と定着してきている。

### (4) 生活習慣の確立

- 生活習慣に関して、小中で連携し、9年間を見通した共通の呼び掛けを保護者にすることができた。
- 実態調査の結果を基に児童・生徒が自分の生活を振り返ることによって、勉強時間を増やしたり、ゲーム時間を減らしたりすることができた。

## 2 課題

### (1) 小中連携の取組

校種間や発達段階の違いにより、意思統一できるものとできないものを見極めが難しかった。今後は、それぞれの実態に応じた連携の在り方について研究を深めていきたい。

### (2) 小学校の取組

主体的に学習する態度が身に付き、目指してきた相手の話を聞こうとする態度や進んで話そうとする意欲も向上した。しかし、自分の考えを整理したり、話を練り合ったりする活動は課題がある。

話を聞く態度や提出物の徹底などの学習規律は、少しずつ改善されつつあるが、課題の解消には、まだ、時間が要すると思われる。今後は、さらに授業改善に取り組み、児童のやる気を高めることができるよう、夢を持ち、それに向かって努力することの大切さに気付く支援にも力を入れていきたい。

### (3) 家庭学習の充実

家庭学習の目標時間を達成する児童が増えてきた。今後は児童が「学習の手引き」を有効に使いながら、自らの家庭学習を振り返ったり工夫したりできるような取組を進め、時間や内容の偏りを無くすような取組を進めていきたい。

### (4) 生活習慣の確立

生活実態調査からテレビの視聴時間・ゲームの時間は、少ない児童と多い児童の二極化の傾向にある。今後は、視聴時間が多い児童に対しての手立てを小中で連携し、改善をしていきたい。

## ○取組の継続・発展の要因

「小中連携」や『岡山型学習指導のスタンダード』を参考にした授業改善が、学力の向上に効果が見え始めたので、今後も引き続き、校種間の連携や教職員の共通理解を図ることで、更に発展させていきたい。

## ○管理職・中核教員等のアクション

指導教諭や研修部を中心に、中学校との連携の在り方や授業改善の研究を深め、全教職員が同一歩調で取り組めるようにする。

○その他の資料・写真等



小中意見交換会



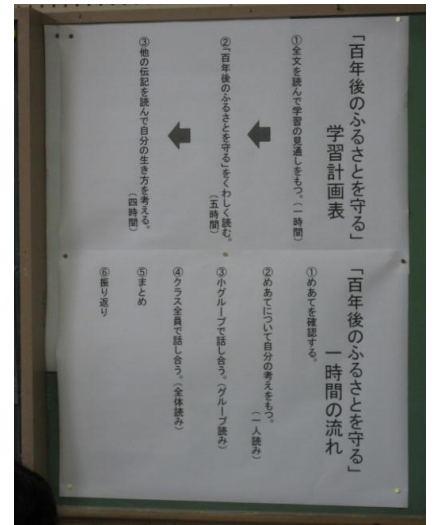
4年生での理科の合同授業



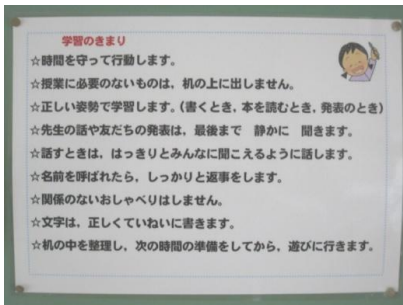
体育祭予行演習の見学



合同授業の様子



学習への見通しをもてる手立て



学習のきまり (高学年用)



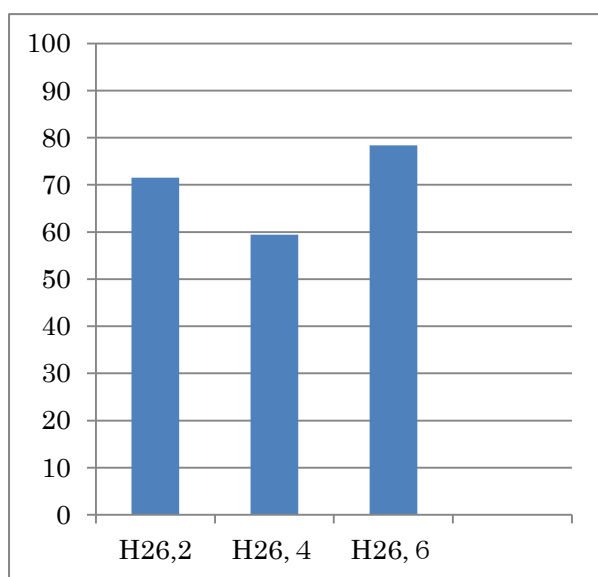
ペア学習



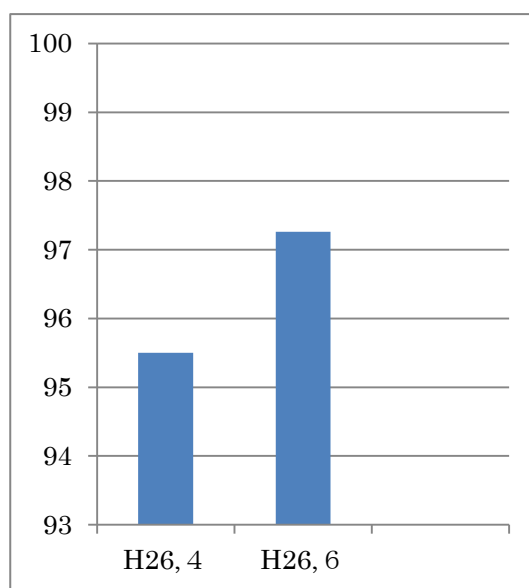
グループ学習



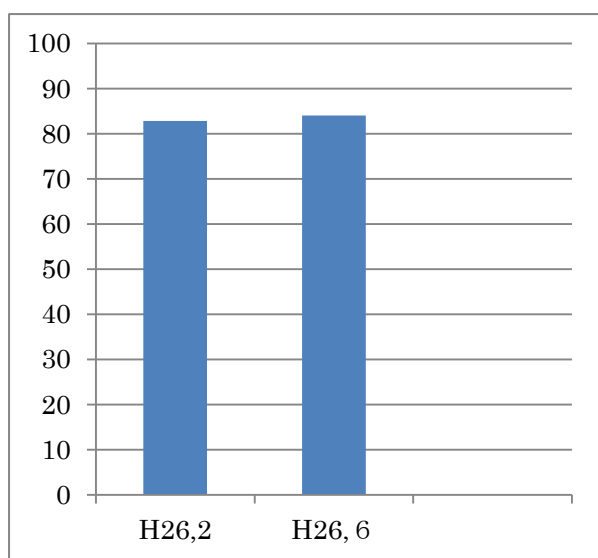
家庭学習学年目標達成率の推移 (%)



朝食摂取率の推移 (%)



1週間に起床時刻を守れた児童の割合の推移 (%)



1週間に就寝時刻を守れた児童の割合の推移 (%)

